

代表の決定と勝ち点方式について

審査員は各団体の演奏に対し、自由曲を10点満点で評価し、かつ講評を行う。各団体の評価の総点に基づき、金賞グループ、銀賞グループ、銅賞グループを決定する。県代表については、勝ち点方式（勝ち：2点、引き分け1点、負け0点）により順位を決定し、代表を選出することとする。勝ち点が同点の場合は審査員で協議して決定する。

例) 審査員5人がABC 3つの団体にそれぞれ以下の点数を付けたとする。

	審査員ア	審査員イ	審査員ウ	審査員エ	審査員オ	合計
団体A	7	8	8	7	10	40
団体B	8	6	9	8	7	38
団体C	6	7	8	8	7	36

点数合計による順位は 1位：A 2位：B 3位：C である

勝ち点方式は、AとBとではどちらが勝つか、BとCでは、AとCでは、というように、出演団体がすべての団体と総当たり戦を行い、勝った方に勝ち点を与え、勝ち点の合計で順位を決めるという方式である。上記の場合、AとBが対戦したとすると

	審査員ア	審査員イ	審査員ウ	審査員エ	審査員オ	合計
団体A	7	8	8	7	10	40
団体B	8	6	9	8	7	38
結果	Bの勝ち	Aの勝ち	Bの勝ち	Bの勝ち	Aの勝ち	

このように、審査員の過半数（5名中3名）がBの勝ちという判断なので、BはAより演奏が優れていたとみなし、Bに勝ち点2を与える。同様にBとCの対戦では、

	審査員ア	審査員イ	審査員ウ	審査員エ	審査員オ	合計
団体B	8	6	9	8	7	38
団体C	6	7	8	8	7	36
結果	Bの勝ち	Cの勝ち	Bの勝ち	引き分け	引き分け	

となり、Bに勝ち点2を与える。最後にAとCの対戦では、

	審査員ア	審査員イ	審査員ウ	審査員エ	審査員オ	合計
団体A	7	8	8	7	10	40
団体C	6	7	8	8	7	36
結果	Aの勝ち	Aの勝ち	引き分け	Cの勝ち	Aの勝ち	

となり、Aに勝ち点2を与える。まとめると、「Aは、Bに負けCに勝った」「Bは、AにもCにも勝った」「Cは、AにもBにも負けた」となって、以下の表のように勝ち点の合計が計算される。

	A相手	B相手	C相手	合計
団体A		0	2	2
団体B	2		2	4
団体C	0	0		0

勝ち点による順位は

1位：B 2位：A 3位：C

メリットとデメリット

○勝ち点方式のメリット

- ・特定の審査員が著しい高評価（低評価）をしたときに全体の合計には影響が強く
であるが、勝ち点方式では一人分の点数にしかならない。
審査員一人一人が対等になる。
- （擬似的だが全日本吹奏楽コンクールにおける上下カットと同じような効果がある）
- ・金賞グループから代表決定のプロセスが明確であり公開できる。
- ・点数（評価）以外の要素が代表決定に関与しない。
- ・3人～5人で多数の審査員を納得させた団体を代表とできる。
- ・集計から審査発表までの時間を短縮することができ遅くなりがちな終演時間を
早くできる。

●勝ち点方式のデメリット

- ・少数（一人）の審査員だけが発見した美点が代表決定に生かされない。
- ・点数以外の要素を代表決定に考慮できない。
- ・一目で結果がわかりにくく、ワークシートを事前準備するなどする必要がある。

ご不明な点等は、直接理事までお問い合わせください。